

写真・イラスト・地紋・広告などのデータ入稿

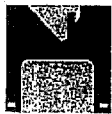
●入稿メディア



FD
(2HD)



MO
(640MB)



SD
(120MB)



E-mail
(5MBまで)

●必読!

入稿メディアのラベルに社名、号数、面数を記入。

E-mailの場合、メッセージ欄に社名、号数、面数、ファイル名を明記し、データは添付ファイルにして送り、必ず出力見本をFAXで提出し、ご連絡下さい。

●補足

他のメディアによる入稿、保存形式、アプリケーションについて、不明な点に関しては事前に担当者にお問合せ下さい。

Photoshopなどのビットマップデータについて

●ファイル形式

写真の基本はEPS・TIFFまたはJPEG形式でお願いいたします。
イラストの場合はEPSまたはTIFF、PSD形式でお願いいたします。

●その他のファイル形式

JPEG、PICT、BMP、GIF形式はWebやデジタルカメラの画像に多く使用されています。

解像度の設定を変えられるものもあるようですので、お手持ちのデジタルカメラをご確認下さい。

●解像度



写真の解像度は使用サイズの状態です。400dpi以上でお願いします。Web上のJPEG、PICT、BMP、GIF形式などは基本が72dpiと低いため、プリントアウト時に画像が粗れてしまいます。入稿前にご確認下さい。モノクロ二階調の場合は1200dpi以上でお願いいたします。

●写真データ形式

JPEG・EPS・TIFF形式で
400dpi以上の解像度

●イラストデータ形式

EPS・TIFF形式で1200dpi以上の
解像度

Illustrator、FreeHandなどのベクトルデータについて

●書体の注意点

書体は必ずアウトライン処理して下さい。弊社に搭載していない書体を使用する場合は事前にご連絡下さい。欧文書体は書体そのものを添付していただければ結構です。

また、TrueType書体を使用する場合は出力結果が変わってしまう場合がございます。

●アウトライン処理



イメージセッターのような高解像度出力機で出力する場合、出力側にも書体をインストールしなければ出力は不可能になります。出力側がない書体を出力しようとした場合に文字が正確に出力されないのはこの為です。一般的に「文字バケ」と言います。これを回避するために、出力前に文字をアウトライン処理します。アウトライン処理とは文字情報をなくし、図形オブジェクト化することを言います。



アウトライン処理前



アウトライン処理後

●Photoshopなどで制作されたデータ配置

配置する画像は必ずEPS・TIFF・JPEG形式でお願いします。また、配置した画像データも同一のフォルダ階層に入れて下さい。

※データ入稿の際、Adobe Illustrator9.02を使用する場合は必ずご相談下さい。

データ入稿全般

●新聞・書籍完成データ

完成データを入稿する場合は、Quark XPress3.3/4.1・InDesign・Illustrator を使用して下さい。

●データ入稿する場合の注意点！



完成データは地紋、写真、広告など、全てを網羅するデータなので、様々な問題が発生しやすくなってしまいます。必ず下記の事項を確認して下さい。

●書体

必ず本書に記載されている書体の使用をお願いします。そして、モリサワフォントを使用している場合はOCFかCID等、使用書体を明記して下さい。OCFとCIDを併用すると「文字バケ」してしまいます。

欧文書体を使用している場合は書体そのものを一緒に添付して下さい。

●Photoshopなどで制作された配置データ

配置した写真は必ず、EPS・TIFF・JPEG形式にして下さい。また、画像データも同じフォルダ階層に入れて下さい。

●Illustratorなどで制作された配置データ



配置したデータは必ず、EPS形式にして下さい。また、配置データも同一フォルダに入れて下さい。

配置データ以外に不要な孤立点や下絵、オブジェクトは必ず消去して下さい。出力の際に支障がでる場合がございます。

カラーはCMYKモードをお願いします。

●ファイル形式・解像度別印刷適性表

画像データサイズが原寸サイズ 画像データサイズが使用サイズの2倍以上

(解像度単位: dpi)

解像度 形式	72 以下	200	300 以上
TIFF	×	○	◎
EPS	×	○	◎
BMP	×	○	◎
JEPG	×	○	○
PICT	×	■	■
GIF	×	×	×

(解像度単位: dpi)

解像度 形式	72 以下	200	300 以上
TIFF	×	◎	●
EPS	×	◎	●
BMP	×	◎	●
JEPG	×	○	○
PICT	×	■	■
GIF	×	×	×

- 必要以上
- ◎ 良い
- 最低限
- ×
- 存在しない

※データ入稿の際、Adobe Illustrator9.02を使用する場合は必ずご相談下さい。

● 画像データを実画像として使う場合

画像はCMYKでEPSのバイナリデータで保存して下さい。
Photoshopで修正された画像はレイヤー統合して下さい。
実データ入力の際に解像度を4Cの時は400dpi、1Cの時は200dpi以上で入力して下さい。
絵柄の入る部分にはダミーの絵柄（透明ボックス以外の何か）を入れておいて下さい。また、その場合はコピーに明記して下さい。

● 埋め込んだ画像のリンク

クォーク3.3以降は「出力ファイルの収集」コマンドで、ページメーカー6.0以降では「別名で保存」の際に「すべてのリンクファイル」のオプションをチェックしておくことで、同一フォルダにまとめることができます。ただし、Illustrator EPSファイルの中に張り込んだ配置画像までは収集されませんので、ご注意下さい。

● Aldus/Adobe PageMaker 入稿する際の注意点

入稿の準備ができましたら、保存する際に、ダイアログの隅の「サービスビューポート持ち込み用」で保存して入稿していただきますと、画像の入稿し忘れなどが防止できます。

● 色分版したフィルムで色校正をとった際に写真画像だけ色調が変化する場合

Photoshop5.0以降のバージョンを使用している場合「ICCプロファイル」という設定があり、この設定で色が変わってしまう可能性があります。「カラー設定」→「プロファイル設定」の「プロファイルを埋め込み」のチェックを外して保存して下さい。

● モニタに表示される画像とカラープリントの色の違い



現状では便宜的に「ガンマ」というコントロールパネル書類を使い、モニタ側のキャリブレーション設定を行い、画面表示をカラープリントの色になるべく近付ける方法がとられています。RGB(画像)をCMYK(インキ)で出力すると、鮮やかな色がくすんだ色に変化してしまいますので、ご注意下さい。

● DCS ファイル形式を使用する場合

DCSファイルはクォークなどに直接張り込んで4色分解出力する場合のみ使用して下さい。DCSファイルを張り込んだファイルを更にEPSとして保存し、他のレイアウトソフトに張り込んだ場合、分解出力はされません。

Illustrator7.0以降—DCS張り込みあり—のEPSを、ページメーカー6.0以降にレイアウトした場合の出力は可能です。

●Illustratorの文字詰めに関する注意点

Illustratorで文字を入力した際に「詰め」を使用した場合、以下の条件で出力結果が思わしくない場合があります。必ずカンパを添付して出稿してください。

1. () 括弧や ; : などのパーレンに対してのみ単独で詰めを適用させた場合。
2. モリサワのATMフォントでATM (Adobe Type Maneger) が効いていない場合。
3. 欧文に同名のTrueTypeフォントとType1フォントが存在した場合
4. ヴァージョンの違うIllustratorでファイルを開いて保存した場合

イメージセッターは高解像度のPostScript出力機なので、出力できる書体はPostScriptフォントになります。TrueTypeフォントは解像度制限のため、基本的に出力はできません。

フォントスーツケースを開いた時、中のフォントファイルのアイコンが「A」を三つ重ねたものはTrueTypeファイルです。

また、PostScriptフォントでも弊社にない書体は出力できず、文字バケてしまいますので、アウトライン処理は必ずして下さい。

●OCFフォントとCID (NewCID) フォントとの互換性

OCFフォントで組まれているファイルを、CIDフォント環境で開いた場合、誤差は少ないようですが、下位互換 (CIDフォントで組んだものをOCF環境で開く) に関してはフォントの詰め情報の違い (OCFが100ピッチに対し、CIDが1000ピッチ等) やディティールの改定により問題が生じます。お持ち込みの際は、CIDフォントが使用されているかどうかを必ず確認して下さい。

●E-mail入稿 (補足)

メールの添付ファイルの形でデータを送信する場合、エンコーディング形式を指定する場合があります。

エンコーディング形式はMacの場合BmHex
Windowsの場合はBmHex、またはMIMEをお勧めします。

なお、入稿に関しては必ず事前に担当営業にご連絡下さい。

●PDF出力

対応は可能ですが、現状のアプリケーション上の制約により、希望通り出力できない場合もございます。入稿前にお問合せ下さい。